

さくら ほっと NEWS

特集

▶「手術室」の見える化

P.2・3

お知らせ

▶中央採血室がリニューアルしました！

▶病院ボランティアが活躍しています

P.4

理念

当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します

基本方針

- ・大学病院として、高度先進医療を提供します
- ・高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
- ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

名古屋市立大学病院

患者さんの権利等

患者さんの権利

良質の医療を受ける権利
情報を知る権利
選択の自由の権利
自己決定の権利
機密保持を得る権利

患者さんは、人格や意思が尊重され、質の高い医療を平等かつ安全に受けることができます。
患者さんは、ご自身の病気や治療について知ることができるとともに、十分にわかりやすい説明を受けることができます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身で選択し変更することができます。また、他の医師の意見を求めることもできます。
患者さんは、ご自身の受ける治療について、ご自身の意思に基づいて決定することができます。
患者さんのプライバシーは十分に尊重されるとともに、個人情報には厳正に保護されます。

患者さんの責務

- 病院の規則や治療上必要な指示・助言を守って療養してください。
- ご自身の健康状態について、できるだけ正確に伝えてください。
- 説明を受けても十分に理解できない場合は、納得できるまでお尋ねください。
- 他の患者さんの権利を尊重し、暴言・暴力等の医療の妨げとなるような行為は行わないでください。
- 医療費の自己負担分は必ずお支払いください。

お願い

- 大学病院として、医療スタッフを育成するため教育実習を行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。

vol.16
2011年2月



「手術室」の見える化

“手術”というと、皆さん不安を感じたり、心配な気持ちになることでしょうか。しかし、病気を治すためには、どうしても必要な治療であり、その手術を受けて頂くのに少しでも不安を取り除ければと考え、今回、手術室の中をご紹介しますと思います。



当院の中央手術室は、中央診療棟5階に12室、外来棟にも1室あり、合計で13室あります

手術にはたくさんのスタッフが携わっており、それぞれが専門性の高い仕事を行っています。手術に携わるスタッフを紹介します。

執刀医

事前に手術方針などをカンファレンス(検討会議)で十分討議をした上で、手術の適応、手術方法などを決定し、実際の手術では中心的役割を担っています。

第1助手・ 第2助手

手術における補佐を行う医師です。手術の種類によっては、助手が1人の場合もあります。また、指導を行う指導医も手術に参加します。

麻酔科医

手術には大きく分けて、全身麻酔で行うものと局所麻酔で行うものがあります。麻酔科医によって麻酔がかけられ、手術中の心臓の動きや呼吸状態などの全身的な管理を行っています。

臨床工学技士

手術を行うためには、電気メスや顕微鏡などの医療器械を使用します。それらの医療器械の操作、点検、管理、メンテナンスを中心に行う国家資格を有するスタッフです。

看護師

手術に使用するメスやはさみなどの器械の受け渡しを補助します。また、必要な物品や薬品などの準備も行うとともに、患者さんの体温や皮膚の状態の観察や出血量や尿量などの測定も行います。

薬剤師

手術中に使用する多くの薬剤(麻薬、麻酔薬、心臓の薬、抗生剤など)を管理し準備します。

患者さんの 確認



手術を受ける前に、手術室の入口受付にて、患者さん本人であるかどうかを、患者さんにお名前の確認と手首に付けたバーコードで確認します。
これにより、患者さんを取り違えないようにしています。また、歩行できる患者さんは、歩いて手術室の前までお越しいただいています。

入室



次に手術室内に移動して、再度、患者さんのお名前と手首に付けたバーコードを確認して、患者さん本人と再確認できたところで、手術台に上がっていただきます。歩行できる患者さんの場合は、ご自身で直接手術台に上がっていただいています。
左上：手首のバーコード 右下：手術台

麻酔



手術台に上がった後に、心電図や呼吸モニターを付け、点滴を行います。状態が安定している事を確認したら、麻酔の開始です。点滴により麻酔薬を入れるとともに、麻酔用のマスクを顔に当てて、呼吸を繰り返していると、徐々に眠くなってきます。眠ってしまったあとは、全く痛みを感じません。麻酔薬が効いてきたことを確認してから、呼吸用チューブを挿管します。
左：麻酔科医 中：医師 右：看護師

手術



手術開始前に「タイムアウト」といって、患者さんの名前、病名、手術方法、手術部位を、執刀医、麻酔科医、看護師が声に出して確認を行います。手術はチームで行う医療であり、手術中は、安全かつスムーズに手術が進んでいくように、各自が連携を取り、その持ち場で全力を尽くします。
左：看護師 中：執刀医 右：助手

麻酔から 覚める



手術が終了したら、麻酔薬が体から排出され、麻酔の効果が切れてきて、徐々に意識が戻ってきますが、まだ喉に呼吸用チューブが入っていますのでお話はできません。簡単な合図に反応できるようになれば、チューブを抜き、また呼吸や心臓の動きなどが安定していれば、手術室から出ます。
そして、今度は回復室でしばらく様子をみます。痛みがある場合は痛み止めを使用します。異常がなければ、病棟へ移動します。このときは意識もあり、呼びかければ目を覚ましますが、まだ眠気の強い状態です。

病室へ

手術を行うにあたっては、患者さんを取り違えない、手術部位を間違えないなど基本的な確認を行うのは当然のことです。また、滅菌された清潔な状態で手術を行うとともに、手術中の予期せぬ事態が生じた場合でも、他の手術スタッフが一齐に集まり患者さんを救う体制をとっています。

手術は多くのスタッフ関わります。患者さんの安全を第一に考えています。スタッフ一同、チーム医療、医療安全を念頭に、ミスを防ぐことを心がけて日々取り組んでいます。

中央採血室がリニューアルしました！

現在、採血患者数は一日450名位で推移しており、時間によっては大変込み合っている状況で、患者さんには大変ご迷惑をおかけしております。

そこで待ち時間の緩和のため、中央採血室のリニューアルを行い、採血台を6台から9台に増やしました。新しい中央採血室では、待ち時間の表示、新しい患者照合システムを導入しました。それに加えて、患者さんの採血時の負担軽減のために電動で採血台の高さを調整する電動昇降台を一部導入いたしました。



採血は病気の診断、病状の把握を行うための必須の医療行為です。しかし、痛みを伴い、まれに合併症(血が止まらない、青くなる、気分が悪くなる、消毒薬によるアレルギー、神経損傷など)が起きることもあります。このような採血の必要性と合併症をご了承のうえ、採血検査を受けていただきますようお願い致します。

中央採血室では今後も患者さんにとってより安全で負担の少ない採血を心がけていきます。

病院ボランティアが活躍しています

昨年の9月末で、当院のボランティアは活動開始から5年が経ちました。毎日、様々な形で患者さん等のお手伝いをしています。

実際に参加されているボランティアさんに話を聞くと、「これまで続けてこられたのは、患者さんからいただく最高の『笑顔』があるからだと思います。その笑顔は、私たちに元気や自信を与えてくれます。正直助けられているのは私たちの方かも知れませんね。」「患者さんからいただく『ありがとう』の言葉が申し訳なく感じる時があります。本当は医師や看護師等にその言葉を言いたかったんだと思いますが、忙しく働いているので伝えられなかったんでしょうね。」等々、ボランティアの魅力を充分に感じている声が多く挙がりました。



ボランティアをやってみたい方、勇気や元気が欲しい方、何かに自信がない方、どんな理由でも構いません。興味を持った方は、一度病院ボランティアに参加してみませんか？

内容

施設の案内、診療科・検査室等への移動の介助、手話や外国語の通訳、小児病棟での本の読み聞かせ等

時間

平日 午前8時～12時(活動内容によっては午後にも実施することもあります)

お問い合わせ先

ボランティアルーム ☎052-853-8750(平日8:30～14:30)

名市大病院

ホームページの検索方法の案内「名市大病院」で検索

検索

クリック

<http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>



このQRコードをケータイで読みとると簡単にホームページが見られます。

名市大病院さくらほっとNEWSへのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！